

わらびもち

ADULT  
ONLY

# わらびもち



# 目次

表紙	イラストレーション	流一本	
中扉	イラストレーション	流一本	
目次			2
囚われのカレン(コードギアスマンガ)	流一本		3
幕間劇(コードギアスSS)	白朧		15
カレンイラスト(コードギアスイラスト)	くろうさぎ		21
奥付			

こいつが黒の騎士団  
の女エースか…

なるほど  
確かにこの女の  
ようだな

はい  
私もまぎか  
と思いましたが

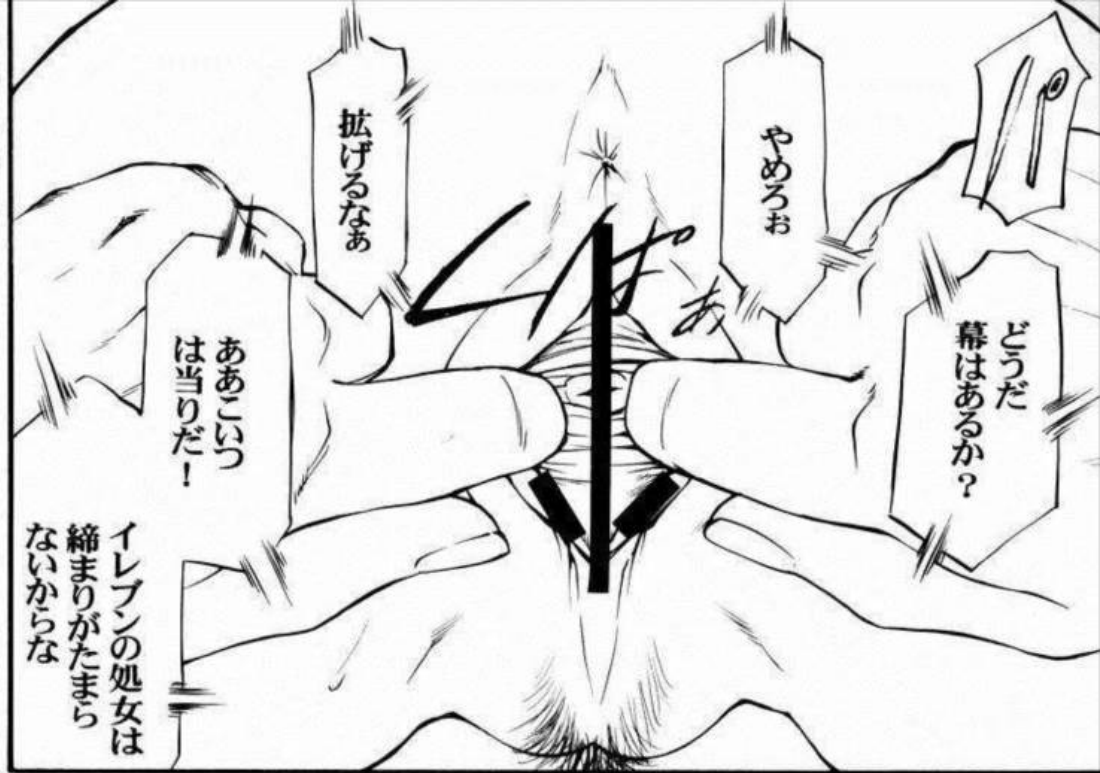
キサマら  
私をこんな所に  
つれてきて  
どうするつもりだ

これも枢木スザク  
の命令か!?

あんなイレブンの  
成り上がりなど  
知らぬ事だよ

お前にいい  
ものを見せて  
やる

くっ…  
何を…





ここに映っているのは  
お前自身だと  
いうのに

レイプされる  
前の顔もよく  
撮つてもらえ

ちくちくっ！

きんきん  
必ず殺してやる!!



う…  
うそ…

どうして…  
私が…

本当に覚え  
ていない  
ようだな

まだ一介の  
テロリストだった  
お前を捕らえた  
時のモノだが

仲間に助けられるまで  
の数週間で肉便器に  
調教される様が  
全て記録されている

ちが…

おおかた  
催眠暗示か何かで  
記憶を消している  
のだろうか…

私じゃ…



すぐに思い出せ  
るさ

こいつ  
リフレインでな

アム



んあーっ  
おづづ〜

んん

ズ  
ズ  
ズ

んんん



いあー

お願い  
やめてえ!!



あ…

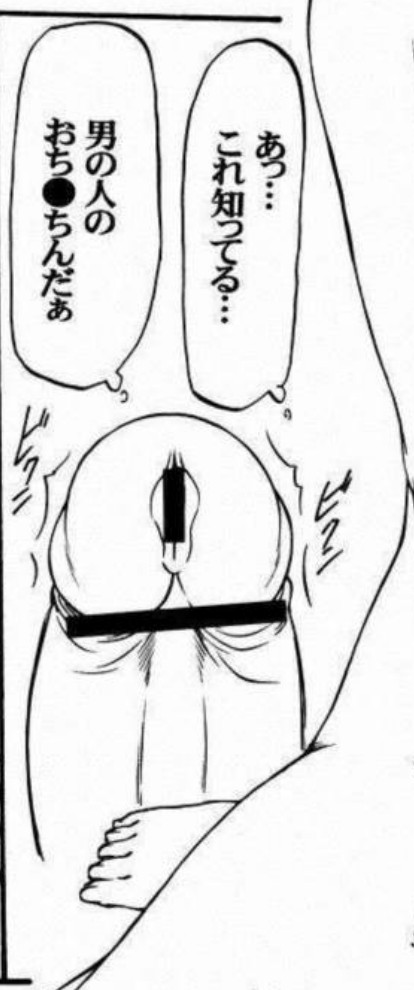
ああ…

カ…

お兄さん！

お兄さん







ん

おい  
こっちもだ

フハハハ  
見ろおっさん  
おまほりだ  
たぞー！

んー

ん

んふ

おっ

ふん♡

こいつフエラ  
しながら感じて  
るぞ

んん♡

んん♡

完全に肢体が  
思い出したよう  
だな





そんなにザーメン  
ほしいなら全部の  
穴にくれてやる!

はあああん♡

ぐちゃぐちゃ

尻穴までもう  
ドロドロかよ

ちようだいっ  
ちようだいっ

カレンの  
ケツアナを  
チンポで  
ヌコヌコしてえ!

そのまま  
抜けてろ

肛門にちんぽが  
めり込むのが  
よく見えるぞ

ふあ...ああ...

くんっ♡  
ちんぽくんっ♡

仕様がないな





どうせ夜は  
肉便器として  
奉仕しているん  
だろう？

ハハハハッ  
これが黒の騎士団  
のエースとはな

は…はい  
思い出しましたあ

カレンは毎晩  
多勢の人達の  
性欲処理で  
御奉仕しますう

たちまちザーメン  
便器に…なつて…  
みなさんに御奉仕  
しま…すう♡

わ…私とお  
セックスしたい  
時はあ…  
リフレインをお  
お使い下さいい♡



うおっ  
痙攣しました！

あ♡♡♡♡♡  
あ♡♡♡♡♡



大丈夫でしょうか？

もし枢木卿の  
耳にでも入った  
ら…

なかにリフレイン  
が切れればまた  
忘れてしまっ  
たろう

もっとあ  
ちゃんほい♡

もっとあ  
ちゃんほい♡

まあ枢木卿が  
リフレインを  
使えば別だがな



# 幕間劇

著者 白蘭

薄暗い部屋に、粘着質な音が響く……。

「う……う」

「んっ……んっ……ちゅばちゅば……んっ、んっ、んんんっ……はあ」

CCCがルルーシユの股間に顔をうずめながら、そのペニスを口付けている。

指で、根元を押さえながら、たつぷりと唾液のつた舌先で先端の剥けたところを舐めまわす。

「うっ、くっ、うっ……はあ……ん」

意志の強い顔を淫猥に歪め、口の周りを凝まみれにしてペニスを嘗め回すCCCはルルーシユの興奮を増幅させる。

舌先のさらつきが、尿道口のあたりに刺激を与える。背筋に熱い戦慄が走りあがるような強烈な刺激にペニスがより力強く硬化してゆく。

「んっ……はあはあ……ちゅくっ！くちゅっ、くちゅっ、んっ……ちゅっ」

自分のペニスが、女の口唇に飲み込まれている様子は、ビジュアルとして刺激的だった。

「うっ……、奥まで、いいか？」

CCCは唾えていたペニスを離すと、いたずら娘のような表情をする。

「CCC……」

「いいですよ、奥まで吞み込んで差し上げます。お兄様」

CCCは昂揚で赤く染まった顔で、「妹」ナナリーの口調を真似て言い放つ。声質は似てはいはずなのに、CCCの顔とナナリーの顔が被って見えた。

「う、うあああ……」

ルルーシユは己の想像したこと思い当たって、一步後退る。しかし、ペニスの根元はCCCの手に押さえられたままだった。

「どうした？ 元気がなくなっただけ」

衝撃的な自らの幻想にスッと体中の血が引いていく。だらんとして力を失ったペニスを、CCCは指先でいじっている。

「う、うるさい！ 悪趣味なことをするな！」

「ふふっ……、どうだか……。お前の心と脉を慰めてやろうとしたのに……」

CCCのピンク色の唇が開き、赤い舌が出たかと思うと、先端の肉の実をぞろりと舐めた。

「う……うっ」

「んっ……んっ……ちゅばちゅば……んっ、んんんんっ……はあ」

CCCが顔を動かすたびに、長い髪が室内灯の光を反射して光る。ルルーシユはその髪に魅入られたように、そっといじくった。

「CCC……、お、奥まで……」

ルルーシユが口を開く。髪を撫でる優しい手つきが心地よく、CCCは上目使いでルルーシユを見て、ゆっくりと肉棒を呑んでゆく。

「うっ……うっ……んんんっ！」

ルルーシユがうなり声をあげた。気持ちよくて堪らなくなって、腰をモソモソと動かす始める。

反応を確認して、CCCはさらに舌先で裏筋を前後に舐めまわす。

「うっ……んんん」

ペニスが口の中で前後に跳ねた。

「んん……んん……」

喉の奥を突かれてむせる。そのままペニスをちゅばちゅばと吸いあげていく。

CCCがペニスを吸い上げ、舌が敏感な裏筋を刺激しながら男根を押しあげて、上あごのざらざらしたところにペニスが密着する。熱い唾液がところどころと絡みつく。頬裏の粘膜で締め付けられ、精液を搾り取るように吸引してくる。

「うっ、ああ……、CCCっ……うっ……」

「ちゅばあ、ちゅっ、んんっ、はあ……、あ、んっ……」

ルルーシユの限界が近いことを見取ったCCCは、さらに激しく吸引した。それがきつかけになり、ついに射精がはじまった。

「で、出るっ、う……、CCCっ！」

我慢していたものを解き放つ感触は、途方もない快楽だった。

「げほっ……げほっ……げほっ……げほっ」

解放と共に腰を突き出したために、肉棒の先端がCCCの喉奥を突き上げ、苦しそうにむせる。その反動で唇が離れ、CCCの鼻先に白濁液が飛び散る。ねっとりとした液体がCCCの顔を汚していく。





ルルーシュがCCの背中に覆いかぶさり、背中の方から手をまわして乳房をキョウと  
かんだ。

「あつっ！」

パイプの振動で、乳房は芯から熱くなっていたから、背中がブルツと震えてしまう。

CCは白い喉をのけぞをして喘いだ。

「あんっ！胸は……、お、おっぱい……、ダメええ」

ルルーシュはようやく律動を開始した。

「あつっっ！」

後背位の姿勢の挿入角度で亀頭のエラが膣壁のザラザラを引っかきながら出入りする。その振動で膀胱が揺さぶられ、尿意にも似た快感が走る。

くっく深く突きこむときだけ子宮口が叩かれて、ズウンと重い刺激が走る。

「いいっ、いいぞっ！もっ……」

脇腹や腰を掴んでいるルルーシュの手が、汗でぬめって滑り、背中をさすったりする感  
触さえも興奮する。

「うっ、C.C.っ……、C.C.うー！」

ルルーシュはCCが、ペニスの突き上げに従って甘い声をあげて悶える様子を見て目  
を見張った。

お尻の山が邪魔になって結合が浅いが、真ん中の浅いところが男根をいい具合に刺激  
して最高に気持ちいい。

剥いたばかりのゆで卵を二つ並べたようなお尻の谷間で、アヌスが開いたり閉じたり  
している。

ルルーシュは、親指の先を尻の穴にめりこませた。

「はっ、……、そ、そこは……、る、るーしゅ……、うんっ！」

指を入れた瞬間に、括約筋がキョウと縮まり、同時に膣壁がうねるように縮まってい  
く。

「う、うあ……、くっ……」

括約筋の締め付けによって、親指が抜けなくなってしまう。そのままペニスの抽送をし  
ていると、括約筋が緩み、指を抜くことができた。

「あ、はあ……、だめ……だ」

そのまま、アヌスを見つめていたが、数秒後にルルーシュは激しくペニスの運動を開始  
した。

「い、いいっ、いいぞっ、もっ、もっとおー！」

CCは気持ちよくてしかたがないという感じで、髪を振り乱しながら頭を左右に振  
っている。

その髪は、肌にはじんだ汗で白い肌を彩るように張り付いていく。  
CCは甘い声をあげてのけぞった。

「あつっ、も、もう、イクッ、ル、ルルーシュっ、もう、イキそうっ！」

ペニスが身体全体を揺すりつけるたびに、鋭い電流が走ったかのような衝撃が貫く。  
後背位だと性感スポットの子宮口の奥まであまり到達しないが、背後からの結合と  
いういかにも覆われているという精神的なスパイスが、昂りを助けている。

快感の中心をはぐらかしてやるような焦らされるまくわいにCCの感覚は他愛もなく  
高まっていく。

子宮が甘い疼きを発し、ルルーシュの精子を受け入れようと準備している。

もう少しで届くところにいるのに、中々達せないもどかしさがに焦れてしまう。

「ルルーシュっ、せ、精子を……」

CCはこの状況をなんとかする方法を知っていた。この甘く疼く子宮に、精液を注ぎ  
込んでもらえば、イキそうでイケないこの焦燥から解放される。

「C.C.、正直になれよ。今、お前を解放してやれるのは、俺だけだ」

CCは、ルルーシュの顔を見つめて黙りこんだ。

「い、いじわるするなっ！ひ、ひどい男だな……」

「じゃあ、仕方ない。抜く……ぞ」

ペニスがぬるっと出ていき、亀頭の力りが秘口の裏側に引っかかった状態で動きを止め  
る。

「あ……っ」

ルルーシュは本気だ。本気でペニスを抜いてしまう。

こんなに子宮が発情するのに、精液を入れてもらえない。

CCは必死の思いで懇願した。

「いやだっ！抜くな、ルルーシュ！なんでもして、いいからっ、精液を……、そ、注いでく  
れっ！」

ズゴッ！

CCが腰を突き出した動きと、ルルーシュが突きこむ動きがびつたり合った。結合が  
深くなり、亀頭が子宮口をコツツと叩く。それに反応して、蜜液がドロッと溢れ出す。

「あああああっ！」

CCはブルブルツと軀を震えさせた。深い結合で膣壁にまで衝撃が走りシエイクされ  
る。軀全体が空中に浮き上がるような感覚を感じる。

目の裏で星が瞬いて、視界が光に覆われていく。

ルルーシュは、さらに腰を前後させて、子宮口を抉ってくる。もうそろそろだとはつきり  
わかる。室内にねちゅねちゅと、粘膜から零れる音がいやらしく響く。

「う、も、もう……」

先にイッたのはC.C.だった。

視界の中に広がった光が、パンと音を立てて破裂した。

「イッちゃううううー」

ルルーシユは、亀頭で子宮を押し込むようにしながら、子宮口に向けて射精した。

「うう……ううう……く……」

肉壁が真ん中の狭いところで肉茎をしごくように蠕動する。射精途中で敏感になつてペニスを、ザラザラした膣壁にキツと締められ、愛撫される感覚は、恐ろしいほどの快感だった。

女の本能が、精液を一滴残らず子宮内に収めようとしている。

C.C.は、しばらく硬直していたが、ひくつと喉を鳴らして力を抜いた。

「あ、……染みる……精液が、子宮に、染みて……あ、あつい、すくくあつ……い」

うわ言のように繰り返していた。

精液を一滴残らず注ぎ込んでからペニスを抜いた。

ルルーシユの男根の形に開いた膣口から精液と蜜液が混ざり合った白っぽい液が零れた。

零れてしまった精液に未練があるかのように膣口がヒクヒクと痙攣している。

ルルーシユは、先ほどのパイプを引き寄せる。そして、ぐったりしたC.C.の腰を引っ張りあげて下腹のところにクッションを入れて腰を浮かし、収縮しつつあった膣口にパイプの先端を押し当てた。

「う、なんだ……冷たい……」

失神していたC.C.が意識を取り戻した。うつ伏せでお尻を突き出した姿勢のまま背後のルルーシユに向けて首を巡らせた。

「自分だけ気持ちよすぎて失神か？ 俺にも遊ばせろよ」

ルルーシユはパイプを持つ手に力を入れた。

「あ、あん……ん……る、るる……ん、しゅ……つ、冷たい……」

膣口がいつばいに口を開き、真っ黒なパイプを呑んでゆく様子は、ノーマルセックスとはまた違った興奮があった。

膣圧が凄く、少しでも気を許すとパイプが押し出されてしまいそうだ。ようやく根元まで沈めることに成功した。

「スイッチを入れるぞ」

「あつ、あああつ……い、いやつ、いやあああつ……ああつ、あああつ！」

カチッ！

「あつ、あああつ……い、いやつ、いやあああつ……ああつ、あああつ！」

ビリビリと振動するパイプが、C.C.の蜜垂の中でぐるぐると回転し、みつしりと合わさつた膣壁をかき回す。

膣内の敏感な部分をかき回され、驚いた軀が反応を起す。膣壁が収縮しパイプをいつそう啜え込んだ。

「くうう！ ああつ！ し、痺れて……、くうん！」

C.C.はお尻をくねらせて悶えた。

ビリビリくる振動が、子宮ごと身体全体を揺さぶる。

「ああつ……も、もう……子宮が、子宮があつ！」

先ほど、精子をたづぶりと呑み込んで、疼きが収まったはずの子宮が、再度甘く疼き出す。

機械ならではの単調で容赦のない動きに、絶頂を迎えたばかりの軀は、急上昇のように高まっていく。

「感じるつ、いいつ！ も、もう……」

そろそろ絶頂がやってくる。

身体が宙に浮かぶような、あの感覚が襲ってくる。子宮はその感覚を求めているのかさらに激しく疼き始める。

しかし、単調な機械では限度なのか、中々絶頂にはたどり着けない。

C.C.はルルーシユの腕を掴むと、啼くように哀願した。

「ルルーシユのが、欲しいつ！ ルルーシユの手●ボで……、奥まで、かき回してくれつ！」

ルルーシユは薄く笑みを浮かべて、C.C.に確認を取る。

「俺のものが、いいんだな？」

「ああ、ルルーシユの、オチ●チンが、……欲しいんだ……」

ルルーシユの男根を欲しがって、悲鳴をあげるC.C.は普段の高慢さとのギャップが可笑しい。自然と笑みがこぼれてくる。

「わかった。すぐに、満足させてやるよ」

ルルーシユは、パイプを呑んでいる膣口から溢れた液体を指先ですくい取って、アヌスに塗りつけた。

「なにを……、して……」

「準備だよ、……このね」

腰を引こうとしたC.C.は、その反動でパイプの角度が変わって、膣奥深く突き入れられた先端が子宮口を抉つたらしい。真っ黒なパイプを呑んでいる膣口から、蜜液が噴出した。

ルルーシユは蜜液を指先で拭つてはアヌスに塗りつけ、指先で括約筋をほくほくしていく。

すばまっている菊花もだんだん柔らかくなり、ようやく指先がめり込んだ。

「んっ、んんっ、んんっ！」

CCは四つん這いのままで身体をプルプルと震わせる。興奮した女体はパイプをしっかりと啜り込んでいた。

溢れる蜜液を潤滑剤にして、硬く閉じたアヌスを指でほくすことを繰り返す。やがて、人差し指の第二関節まで入るようになった。

直腸粘膜を指で擦ると、パイプの振動が指に響いてくる。

「ああ、擦るなあ……っ！」

一端パイプの活動を止めると、CCの身体から緊張が抜けた。その瞬間に、人差し指と中指を揃えて、CCの菊座に突き入れる。

「あうっ！くはあ……、んんん……！」

突き入れた後に、再度パイプのスイッチを入れる。パイプは唸りをあげて円を描くように首をふって動き出す。

「あつ、あああつ、んんん……、んんん……、んんん……！」

アナルに指が入っているせいで、膣が狭くなったように感じられ、パイプの刺激がより一層強く感じる。

ルルーシユは、CCが慣れた頃を見計らって、指を三本に増やした。

「ああっ！く、苦し、うっ！うっ！」

閉じ合わさっていたアヌスはいつぱいに菊花を広げて、ペニスと同じくらいの口を広げがっていた。

いつもは、澄ました感じで自分をからかうCCが、自分の指を肛門に突っ込まれ、四つん這いになって喘いでいる姿は、ルルーシユに堪らない興奮を喚起させる。

その証拠に、自分の下腹部にある男根は、はちきれんばかりに漲っている。

膣口から、引き刺がするようにパイプを引き抜いて床に放り出す。膣口にペニスを押し当て、一気に挿入した。

「ああっ、き、気持ちいい、イイッ！」

CCは身体を震えさせ、甘い快感に悶えていた。パイプのときは比べ物にならない反応だった。

ルルーシユは、しっかりとCCの身体を保持し、膣からペニスを引き抜いた。

「あ、抜くなっ、まだ……！」

そのまま、ルルーシユの男根は、交じり合った体液を潤滑剤の代わりに纏って、お尻の穴へと押し当てた。

「う……、ま、て……！」

先ほどほくしたといつても、再度閉じた菊座が抵抗する。しかし、腰を突き出し力ずくで突破する。

「うっ、か、硬い、な……！」

先端が入ると、めりめりと進んでゆく。どこまでも呑み込まれそうな感じだった。

「うっ、苦し、あああつ！」

ようやく根元まで押し込むことができた。熱い直腸粘膜に締め付けられて、今にも爆発しそうだった。

「やあ、あああ……、く、くる、しい……でも、うっ……！」

閉じた器官を無理矢理押し開かれる拡張感と圧迫感が身体を苦しめる。

ルルーシユは腰を引き、ゆっくりピストン運動を開始した。

突き入れる際の、膨張感と拡張感、引き抜く際の、開放感と幸福感が交互に襲い掛かってくる。

「あ、はあ、ルルーシユ……、はあ、んんん……！」

CCは身体を小刻みに震わせながらも、もつと奥まで入れてと、とばかりに、腰をくつと突き出した。

「実際に、イヤらしいじゃないか、CC。アヌスに突き入れられているのに、こんなに腰を突き出してきて……！」

ルルーシユの動きが激しさを増す。

脳天まで突き抜きそうな重い衝撃とともに、挿入時の排泄欲求と膨張感、拡張感が増大していく。

「あああああ……、く、くる……、しい……！」

ルルーシユは、CCの激しい反応を見て、強さを調整しながら、律動を繰り返す。

「ああっ！気持ちいいっ！」

CCが首を上下するたび、髪が剥き出しの肩に落ちかかると、彼女が気持ちよくなっていることは、脂汗にまみれた肌や、一層熱くなった直腸粘膜やキツく締め上げる菊座でわかる。

「どうだ？CC。もつと欲しいか？」

「ああ……、お、奥までっ、奥まで。入れてくれっ！」

CCの身体をしっかりとホルドして、ルルーシユは本格的に律動を開始した。

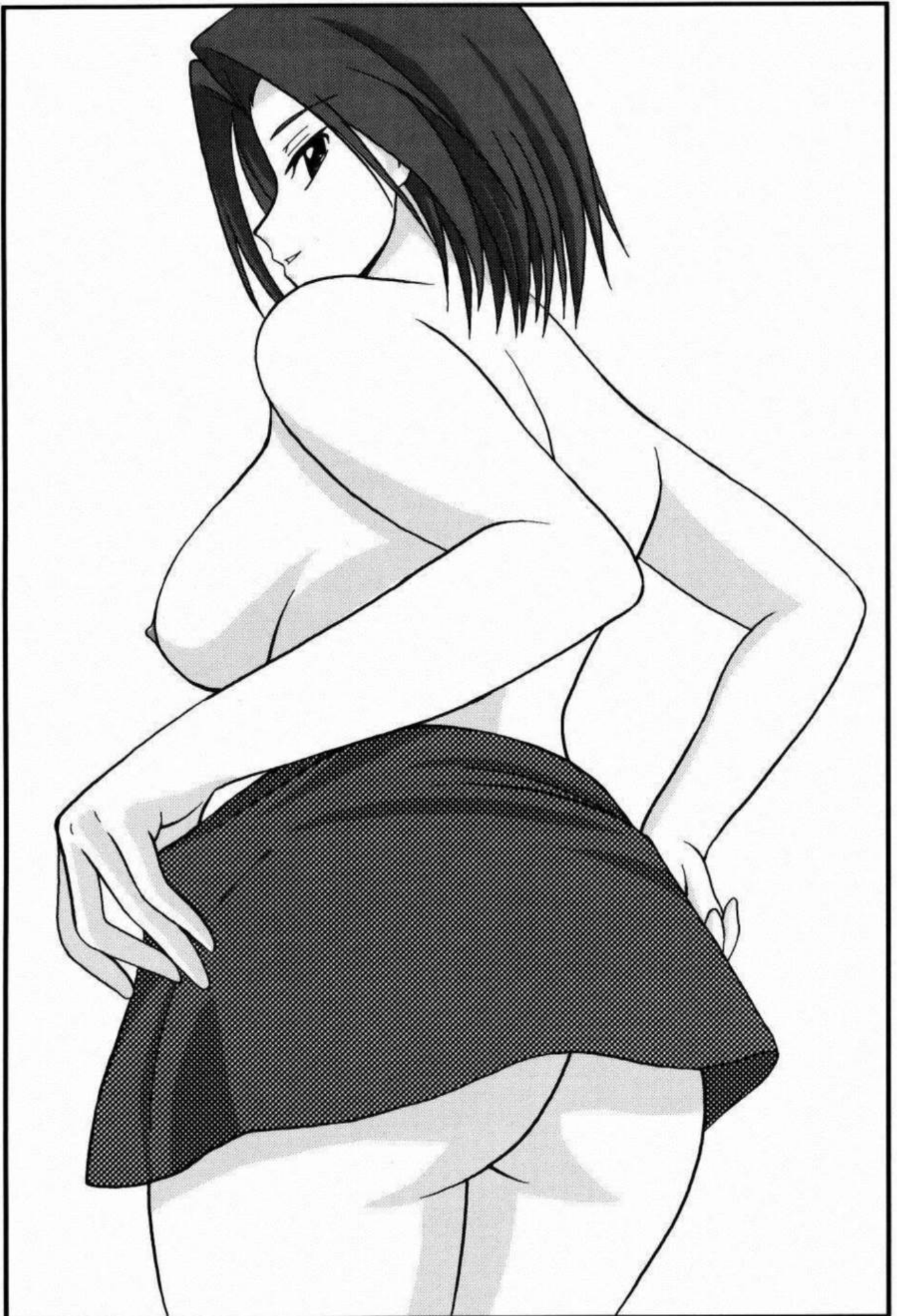
「あああつ、く、苦し……、いいいいっ……、ダメだ、あああ……、はうん！」

CCは苦痛と快楽を交互に訴えながら悶え狂った。

熱く滾ったすべすべの腸壁が、ペニスの周りに纏わり着き、ゴムのようになり締め付ける。粘着質な音を立ててペニスを抜き差しするたびに、CCの背中が震える。四つん這いで床に胸を密着させて喘ぐ姿は、普段の彼女からは想像もつかない姿だった。

「あああああ……！もつと、もつとだ。ルルーシユ……！」







## あとがき 代りのスタッフの日常つーが、2手

白朧 「LeLe☆ばつば13」「わらびもち」をお買い上げ頂きありがとうございます。

くろさき なんでタイトルがわらびもちやねん!

白朧 車で君んちに向かっている最中に、わらびもちの軽トラが前を走っていたからです。

くろさき まあ、いい。この度、僕結婚することになりました。

白朧 相手は二次元か、三次元か?

くろさき 僕の嫁さんはタマ姉でも舞衣ちゃんでもありません。普通の人間ですよ。

白朧 巨乳か!

くろさき 残念ながら巨乳ではありません。

白朧 この嘘つき! お前巨乳好きだと言ってたじゃないか。

くろさき ええ、巨乳好きですよ。大きく出来るものならばしてもらいたいですよ(笑)

これはかりは僕にはどうしようもありません。

白朧 実はあつしも嫁もらったんだ。ほら、画像。



くろさき 随分と赤い嫁だな。しかも長い爪が凶悪そうだ。

白朧 照れてるんですよ。カラーでお見せできないのが残念です。

くろさき そんなことより、今後秘密基地での活動が出来なくなるので、それを覚悟としてください。

白朧 ちょwww、スルー!

くろさき 特に僕の設備が使えなくなるので流一本のカラー原稿が心配です。

今後の同人活動も心配です。

まあそんな訳で、今回は反逆のルルージュ、コードギアスカレン本です。

白朧 コードギアス反逆のルルージュだ。

くろさき すみませんまだ見てないものですから。

白朧 流一本からDVD借りてるだろ。山積みしてあったし。

くろさき 原稿が終わったら落ち着いて鑑賞してみます。

白朧 終わってからじゃ意味無いだろ。早く見れ。

8月某日 秘密基地にて





## 奥付

発行 リーフパーティー

発行日 2008/8/17

発行人 くろうさぎ

ホームページアドレス

<http://www.ob.aitai.ne.jp/~carmin60/>

LeLe!まぐま

Vol. 13

